



いわき市立桶売小学校「学校だより」

おけうり



平成31年3月5日(火) 第45号

＜教育目標＞

- ☆進んで学ぶ子ども(知)
- ☆健康でたくましい子ども(体)
- ☆みんなで助け合う子ども(徳)

発行者 校長 本名 武



2年「スマイルフェスティバル」

先週の昼休み、招待状を手に2年教室を訪ねると、楽しいコーナーがたくさん待っていました。企画・準備・運営・進行と2年生が一人で行った「スマイルフェスティバル」(笑顔祭り)。めあては、「みんなが笑顔になってほしい」です。



簡単そうで難しい「わくわくわなげ」は、遠くの高得点か近くの堅実な得点か性格が出るゲームでした。「すいすいキャラクターつり」は、釣り上げた魚の裏面に50点などの得点がありますが、なんとマイナス点もあるので要注意でした。最後には、くじ引きやプレゼントなども用意してあり、



引いたくじを読んでまた笑いがおきました。みんなで楽しく参加し、ねらいどおりみんな笑顔になりました。「楽しい！」を自分たちの力で作り上げることができることが桶売小の誇りの一つです。



ねらい定めて、投げる！投げる！

業間運動では、子どもたちが何やら体育館の壁に向かって紅白玉を投げつけています。見るとその壁には、得点が表示されている的がぶら下がっていました。コントロールよく的に当てることができれば、次の狙う的に移動していき、得点を競



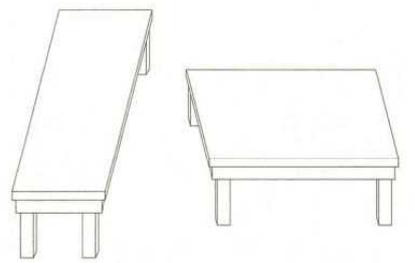
うゲームでした。「巨人の星」の幼き日の星飛雄馬のようにはいきませんが、一生懸命に、そして楽しく的目がけて投げるゲームを通して、流暢に投げる動作を取得したり、スナップを利かせるコツをつかんだりすることにつながるようです。石ころ投げたり、川で水切りしたり、日が暮れるまでソフトボールしたり・・・そんな姿はいつの間にか見られなくなってしまいました。子どもの日常生活の中に「投げる」経験が少なくなっている今、意図的に臨界期を逃さず取り組んでいきたいと思ひます。



不思議！ ピッタリ同じ？

6年算数科の教科書に正方形を45度回転させると、もとの正方形より大きく見えることが紹介されていました。いわゆる錯視の入口のようなもの。この→

2つの机をご覧ください。左側の机の方が右側の机に比べて細長く見えます。もし「2つの机の表面は全くいっしょで、ピッタリ重なります。」と言ったら信じられるでしょうか。実はこの図「シェパード錯視」という有名な図形。左の机が細長く見えますが、左も右も全く同じでピッタリと重なります。不思議ですね。不思議っておもしろいですね。なぜそうなのか知りたい・突き止めたいと思うようになります。それが学問の根の部分のように思ひます。桶売小は、授業でそんな学びを、主体的な学びをめざしていきます。



(新) 右下のホームページアドレス、QRコードをご利用ください。

＜日々の桶売小の子どもたちの活動・活躍の様子などを写真とともに掲載しています。＞



リアルタイム線量測定システムの数値(校庭)
0.092 μ Sv/h 3/5 8:00
(文部科学省HPの放射線モニタリング情報)
<http://radioactivity.nsr.go.jp/map/ja/>

桶売小学校 電話0246-84-2230 Fax0246-84-2240
在籍児童数 男6名 女3名 計9名
※ (新) 桶売小HPアドレス
<https://iwaki.fcs.ed.jp/>
※ (新) QRコード → → →

